

## 整容指導について

坂戸高校 教諭 森田 智裕

### ○基本的なことをしっかりとやっていく。

今、坂戸高校は最終下校時刻が19:30と決められていて、その中で如何に効率の良い活動ができるか試されています。本当はもっと時間を取って好きなことをやり込ませてあげたい。でも限られた時間の中で工夫してより良い活動をしていこうとしています。生徒にとって、工夫してやり込んだという経験は必ず勉強にも影響を与えていると思っています。

そういう活動が活発にできるというのを支えているのが、当たり前になくちゃいけないことを当たり前にする事だと思います。

生徒指導、特に整容指導は、身だしなみがきちんとしていなければ必要ないはず。できていないからそこに教員はエネルギーを注ぎこまなくてはならない。身だしなみがきちんとして、生徒に本当に伝えたいことに教員のエネルギーが注ぎこまれ始めているというのが坂戸高校だと思います。

きちんとするところはきちんとしてないと、本当に伝えたいことが伝わらない。順番を取り違えてはいけないということだと思います。

### ○整容指導は全てに繋がる。

どのように生活していけば生徒に一番伝えたいことを伝えることができるか…生徒は日々変化していますから、こうすればこうなるという方程式は使えません。でも、おそらくこうなるのではないかということは想像できます。

もう退職をされましたが、私が尊敬する体育の先生は、基本をもの凄く大切にされていました。挨拶のことや、時間のこと、服装のこと…今考えると本当に生きていく基本のようなものです。

剣道でも強豪校と言われるところほどそういうところがきちんとしています。そうではないと本物は伝わらない…その確信はあります。回り道のように見えますが、おそらくそういったことを大切にしていけることが、一番早く色々な物事が繋がってくる方法だと思います。

### ○生徒に伝わる、教員の雰囲気

「気持ちよく機嫌よく、我々教員が生活しているよ」ということを生徒に伝えることの大切さを最近感じます。

先生が仏頂面をして眉間にしわを寄せて怒っている姿よりも、なんだか楽しそうだなあという姿のほうが生徒もきっと学校が楽しくなると思います。

私は、「今いるところが一番」というように考えるようにしています。だから、今は坂戸高校が一番なのです。そうすると、結構物事がうまく回ることも多くなってきました。